

令和5年度

2024年3月発行

NEWS



島本町生活支援体制整備協議体

ささえ愛ネットワーク通信

ささえ愛ネットワークは、町内で高齢者に関わる団体・組織と町、社会福祉協議会で作る“**支え合いの輪を広げるチーム**”です。

(構成団体: 年長者クラブ連合会、民生委員児童委員協議会、介護者家族の会、がんばろう若山台、コープこうべ、弥栄の郷、シルバー人材センター、若山荘、街かどデイハウス、ABC 薬局、地域包括支援センター、町高齢介護課、社会福祉協議会)



皆さんは、5年後、10年後、そして将来に向けて、自分たちのまちをどのような地域にしたいですか？
いま全国の市区町村では、地域における支え合い活動を「地域の視点(住民を中心とした多様な主体)で広げていこう！」という取り組みが始まっています。

○ 協議体(ささえ愛ネットワーク)

地域の多様な主体がメンバーとなり、今やっていることや無理なくできることなどを、みんなで話し合います。

○ 生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)

協議体と協力しながら、自分たちのまちをより良くしていくために、地域の様々な活動をつなげ、組み合わせる調整役です。

両者が協力しながら、**住民の皆さんによる住みよい地域づくりを推進**しています。



講演会 報告

1月23日(火)、昨年引き続き新崎国広先生(あらかさくにひろ) (ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰)を講師にお迎えして「ささえ愛ネットワーク講演会」を開催しました。町内で“ささえ愛”の活動に取り組む5団体の活動発表との二部構成で、参加者85名が「自分が楽しく、無理なくできる地域活動」について学び、考える機会となりました。



新崎国広 先生

新崎先生は「お節介とは“節度のある介(なかだち)”という意味で、目配り・気配り・こころ配りができて他人の困りごとを放っておけない人」とし、予防的支援、早期発見の要になると説明。コロナ禍を経て困窮や精神的不安を抱える人が増加、社会的孤立に陥ることを懸念し「地域に暮らす皆さんの発見力、気付きが重要。もしやと思ったら専門職へハウレンソウ(報告・連絡・相談)」と呼び掛けました。

また地域の支え合い活動は「楽しそう、面白そうから始まり、仲間が増える喜びや自分の思いが実現する充実感がある活動。いつまでも志高く活動し、輪を広げてほしい」とエールを送ってくださいました。

第二部では「島本町歌声サロン交流会実行委員会」「MAPT(男性向け活動プロジェクト)」「ほゝえみ会(ユニライフ山崎年長者クラブ)」地域サロン&しまもとオレンジカフェ「すまいる」「コープこうべ 買いもん行こカー」の取り組みを、それぞれの活動者が紹介しました。

町内の住民座談会をきっかけに「やってみよう」と始めたり、従来からあるものを工夫することで会が活性化したりというエピソードを、活動を通じて感じた喜びや楽しさとともに発表いただきました。

新崎先生から「どれも地域が元気になる活動ですね」と高評をいただきました。

写真)活動発表の様子

